

宮城県における震災伝承関連展示の検討状況

宮城県

令和元年11月5日

展示コンセプト

「かけがえのない命を守るために、未来へと記憶を届ける場」

展示の場に「**記憶をめぐる杜**」「**いのちを学ぶ回廊**」の2つの視点を設定し、**公園・中核的施設との調和を最大限配慮しつつ**展示を構成

記憶をめぐる杜

津波被災の大きさを伝え、見る人の**共感**と**自分事**として考えるきっかけを提供

いのちを学ぶ回廊

津波の恐ろしさを科学的・客観的事実として伝え、見る人の**知的理解**と**備え**（逃げる）の重要性を提供

津波から命を守るために



日和山を臨む場で被災体験や被災時の行動のあり方等の情報を提供

宮城県復興MAP



被災地の復興状況や地元を取組等現場から復興の今を発信する場

証言と感謝のライブラリー



各地の被災者の証言や救援・復興支援のエピソードなどを閲覧できる。

主要展示 教訓シアター



科学的視点とリアルな映像で津波の恐ろしさを伝える。

誘いスマートMAP



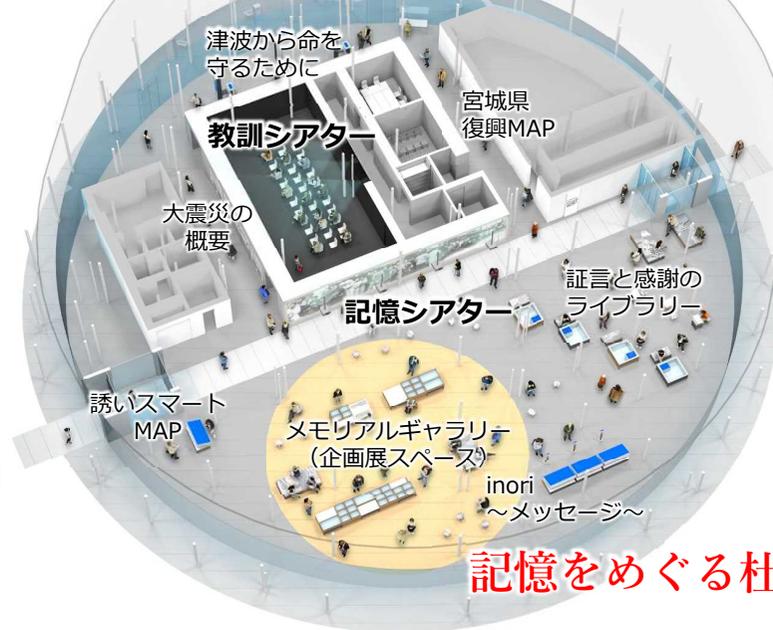
県内の震災遺構・伝承施設等や周遊ルートなどを紹介

大震災の概要



東日本大震災と県内被害を概説（教訓シアターのプレ学習）

いのちを学ぶ回廊



主要展示 記憶シアター



津波の歴史や震災前後の記憶を通し、被災の大きさを伝える。

メイン映像放映間の待機画面で演出

記憶のまち



震災以前、被災時、復興に向かう街など県内沿岸の記憶を映像や写真で辿る。

メモリアルギャラリー



震災関連の作品紹介など、可変仕器により多様な企画に対応



inori ~メッセージ~



デジタルアートやメッセージを残し、思いを共有する。

【展示整備に関する宮城県のスタンス】

▽ 石巻だけでなく、県内各地の被災・復興状況を紹介
→ 被災地や震災関連施設等へ導く**ゲートウェイ**をめざす

展示整備に関する県のキーコンセプト

追悼

震災で失われた**尊い命**や**在りし日を偲ぶ**契機となる

感謝

復興の過程で育まれた**交流・絆に感謝**する契機となる

教訓

被害の凄まじさ、命を守る**教訓**等を学ぶ契機となる

導き

各地の「あの日」と「今」を伝え**被災地に足を運ぶ**契機となる



展示物名称 主要展示

記憶シアター

展示コンセプト

在りし日の情景で包み込み、記憶を誘うシアターです。失われた街を偲び、被災の大きさを心に刻みます。

展示物概要 ※10分程度の映像コンテンツを想定

- かつての県内の風景を辿りながら、繰り返し襲来した津波の歴史を伝えます。
- 津波によって日常生活が一瞬にして失われた衝撃と、人々の思いを描きます。
- 震災後、未来の命を守るために立ち上がった人々や、震災を語り伝える人々の姿を描きます。

シアターの特徴

- 1 震災前、震災後の変化を人々やまちの記憶を通し、被災の大きさを心に刻みます。
- 2 最新技術を駆使した印象的な映像表現により、過去の写真や絵図を演出します。
- 3 津波のシーンでは直接的な視覚表現は避け、語り部の朗読と、文字表現で臨場感を演出します。

●空間イメージ

プロジェクター4台による大型映像投影



展示ホール側に開かれた壁面に、スクリーン映像投影を行います。

〈待機映像〉「記憶のまち」

本編の前後部分となるシアター待機映像は、震災以前の街、被災した街、復興に向かう街など、宮城県沿岸の15市町村の街の記憶を映像や写真でたどり、今を、そして未来を見つめます。2～3分の映像をローテーションさせます。

展示物名称 主要展示

教訓シアター

展示コンセプト

リアルな映像、科学的視点で、津波の恐ろしさを実感します。ドキュメンタリータッチの演出により、津波から命を守るには“逃げる”しかないことを徹底して訴えます。

展示物概要 ※10分程度の映像コンテンツを想定

東日本大震災の事実を基に、科学的視点をもって津波の恐ろしさを伝えるとともに、命を守ることを最重要事項と捉え、津波から“逃げる”ことの重要性を徹底して訴えることを目指します。

シアターの特徴

- 1 「人々の動き」と「地球・自然の動き」を対比、「同時性」にこだわったストーリーを展開します。
- 2 残された映像や、人々の証言など、東日本大震災の事実を最大限取り入れ、リアリティを追求します。
- 3 データやメカニズムなど、科学的な視点で“逃げる”意識・行動の定着へと結びつけます。

●空間イメージ

プロジェクター2台による映像投影



同時性を表現する大型画面のマルチスクリーン演出します。

●シアターの特徴

- ・多言語テロップにより、海外からの来訪者にも対応します。
- ・講座、イベント等でも使用可能な汎用性のあるシステムとします。
- ・収容人員は40名(学校団体1クラス分)を想定します。

展示物名称

大震災の概要

プレ学習スペース

展示コンセプト

シアターのプレ学習として、観測史上最大級の地震・津波による甚大な被害、その全体像を伝えます。

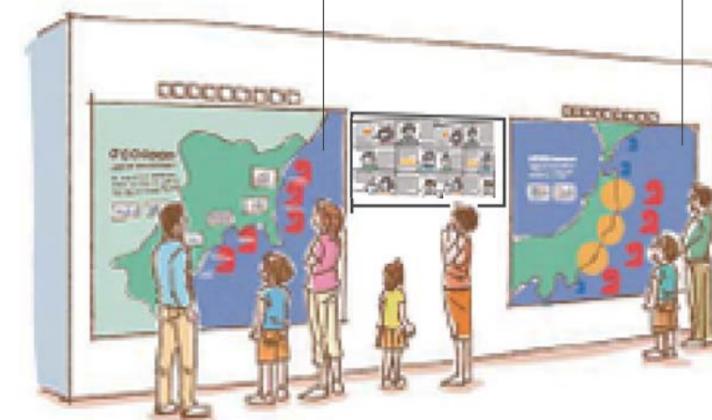
展示物概要

- 教訓シアターのプレ学習として相乗効果を発揮するよう、シアター入り口横の壁面を活用し、情報を展開します。
- 東日本大震災の全体像、および全国最大を記録した宮城県の被害の全体像を概観できるものとし、各特徴と基礎的情報を分かりやすく伝えます。

●空間イメージ

宮城県の被害の概要

東日本大震災の概要



地図ベースによる全体と宮城県の被害の概要をグラフィックにより解説します。

展示物名称

inori ~メッセージ~



展示エリア

展示コンセプト

過去から未来へ“震災への思い”を共有できる、来館者の思いが集う場です。

展示物概要

多くの来館者の思いをデジタルアートによる印象的な方法で形にして表し、残すことのできる展示です。

展示・体験項目

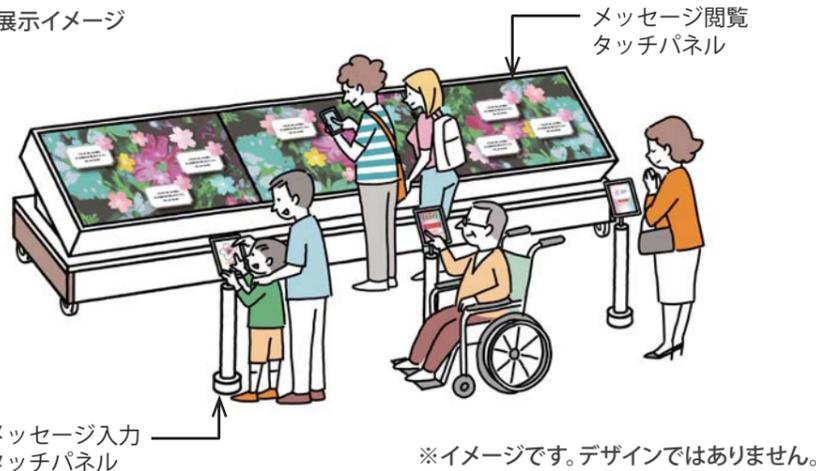
● 思いのメッセージを投稿

彩色した花とともにメッセージを添えて表示することが可能です。メッセージ、名前、どこから来たかなどの情報を入力し、モニターへ反映します。

● メッセージの蓄積・共有

来館者のメッセージを蓄積し、共有することで、共感を促します。メッセージはホームページでも閲覧できます。

● 展示イメージ

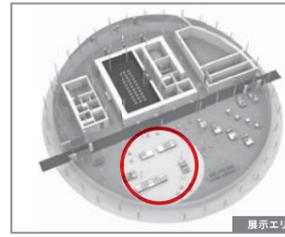


● 画面フローイメージ



展示物名称

メモリアルギャラリー (企画展示スペース)



展示エリア

展示コンセプト

被災遺物など震災の記憶を発信し続けるために多様な企画に対応する展示システムとします。

展示物概要

展示ホールから望む外の景観を妨げないように高さを抑えたステージ型のシステム仕器を企画により自由にレイアウトできます。

展示・体験項目 (仮設定) ※企画展示内容は今後詳細を検討していきます。

● 被災遺物

津波、火災等の被災の凄まじさや失われた在りし日の記憶などを人々のことばや被災遺物による展示で物語ります。

● 復興に向けた取り組み

復興に向けた人々のメッセージや取り組みなどの紹介します。

● 空間イメージ

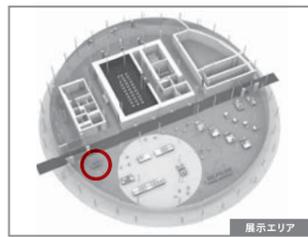


○ システム仕器の展開イメージ



展示物名称

誘いスマートMAP



展示エリア

展示コンセプト

震災遺構・伝承施設を中心に、観光スポットも取り入れ、沿岸被災地へ誘うMAPを展示します。

展示物概要

テーブル型ディスプレイを使用し、公園内・県内・伝承ロードの地図をベースに震災遺構や伝承施設を紹介。タッチパネルによる直感的な操作が可能です。

展示・体験項目

● 公園内MAP

復興祈念公園全体が把握でき、施設や設備等を検索できるインフォメーションMAPです。

● 県内アクセスMAP

県内の伝承施設や、周辺観光施設の閲覧が可能です。

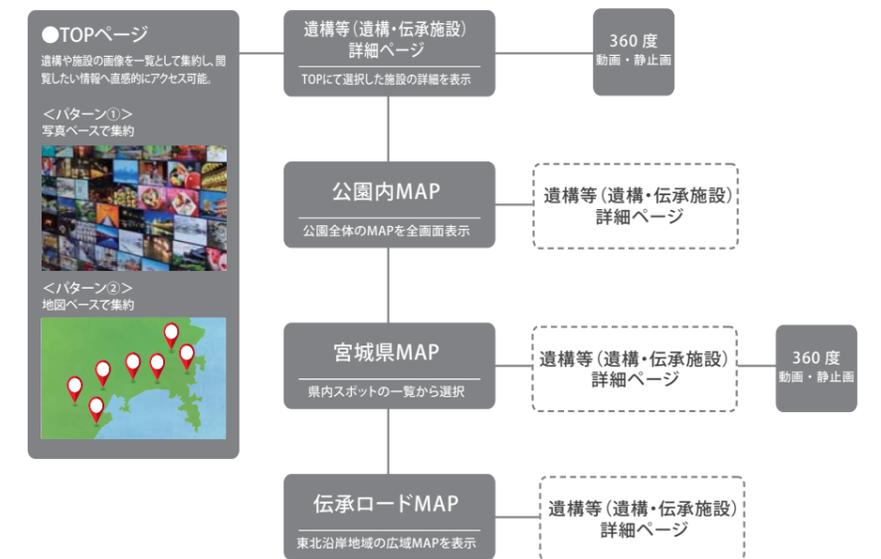
● 伝承ロードMAP

東北沿岸地域を辿りながら、ルートMAP上で震災遺構を紹介していきます。

● 展示イメージ

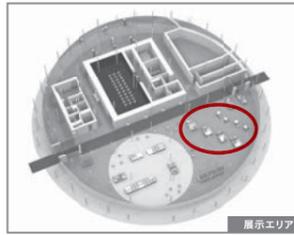


● 画面フローイメージ



展示物名称

証言と感謝のライブラリー



展示コンセプト

被災された方々の証言を伝承、共有し未来に向けて命を守るための意識を高めます。

展示物概要

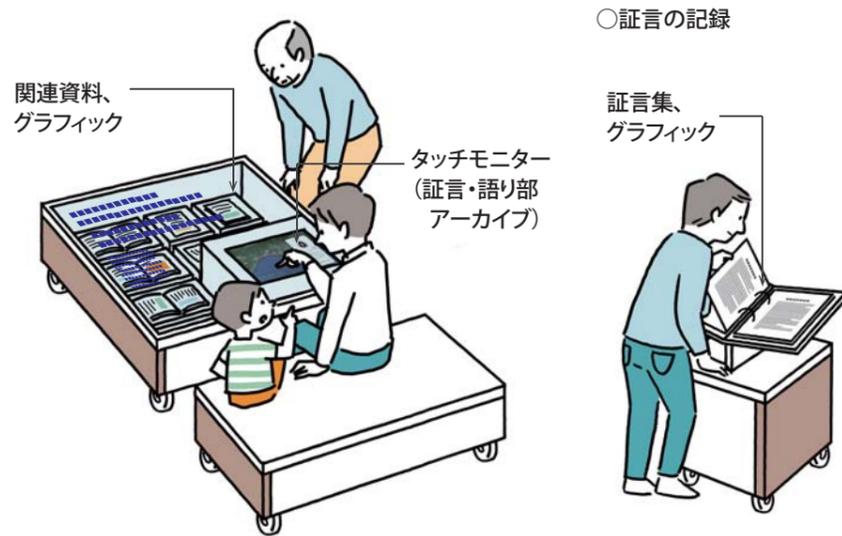
証言集を閲覧できる「ライブラリー」、各地の「証言」「語り」を収集し、関連の震災遺構も紹介する「証言・語り部アーカイブ」で構成。

展示項目

●ライブラリー
什器内に証言集をはじめとする書物や資料を集約して展示、閲覧できるようにします。

●証言・語り部アーカイブ
タブレット端末には語り部のアーカイブを収録します。各地の語り部とその証言の検索・閲覧とともに、関連する震災遺構も紹介します。

●展示什器イメージ



●画面フローイメージ(証言・語り部アーカイブ)



展示物名称

津波から命を守るために



展示コンセプト

津波から命を守る! その意識を植え付け、将来の危機に備える行動を強く促すために日和山を望む空間にじっくりと向き合い学べる場を設けます。

展示物概要

“津波から命を守る”ことに焦点を絞った情報・解説を展開します。個人個人が一つひとつの事例や証言にじっくり向き合い、より深く学ぶ場として設定します。被災した方々の実体験に基づきながら、コーナー全体で“津波から命を守る!”その意識と行動のあり方をしっかりと植え付け、一人ひとりの行動を誘発する展示空間を目指します。

展示項目

●「津波から命を守るために」
縦に流れる人々の言葉や背面の証言モニターから、命を守るには逃げるしかないことを学ぶ展示です。また、壁面では津波のメカニズムや3月11日その時の人々の行動に焦点をあて、グラフィックで紹介します。

●日和山をのぞむ
東日本大震災の時には多くの市民がもの山を目指して津波から逃げ、多くの命が守られたことも踏まえ、地域の人たちにとって大切な山であることを伝えます。

●空間イメージ



○検索装置イメージ
縦長モニターに文字がながれる

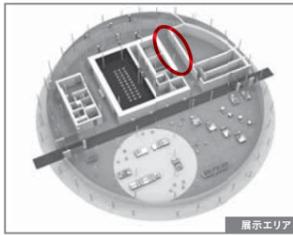


○日和山をのぞむ



展示物名称

宮城県復興MAP



展示コンセプト

各地域被災地の復興の様子や活動、交流について紹介します。

展示物概要

宮城県の被災地の復興状況とともに、被災地の企業や団体の様々な取り組みなど復興の今を更新型で発信していきます。

展示項目

●宮城県復興MAP
・宮城県の被災地の復興状況とともに、被災地の企業や団体の様々な取り組み、復興しつつある商店街、観光・催事など、現地からの声や情報を幅広く集めます。被災地以外の地域には伝わりにくい、復興の今を更新型で発信していきます。
・現地からの声を発信し続けることによって、国内外の多くの人々が被災地に関心を持ち続け、震災学習や観光のモチベーションを高める事に繋がります。
・被災地への新たな人の動きを生むとともに、交流と絆の創造につなげていくことを目指します。

●空間イメージ

宮城県各地の人々のそれぞれの復興の様子を当地の人に紹介していただく更新型の掲示板。



大型モニターにより、宮城県内で様々な復興の様子をインタビューした映像を紹介(更新可能)

●画面フローイメージ

